

(7) 栃木県日光市の大井沢鉱山跡一増補版

本鉱山の鉱山図が入手できた。またGPSのガーミンもあるので、現地の再探査を行い、10年ぶりに、より詳細な探査記とすることにした。

2019年11月

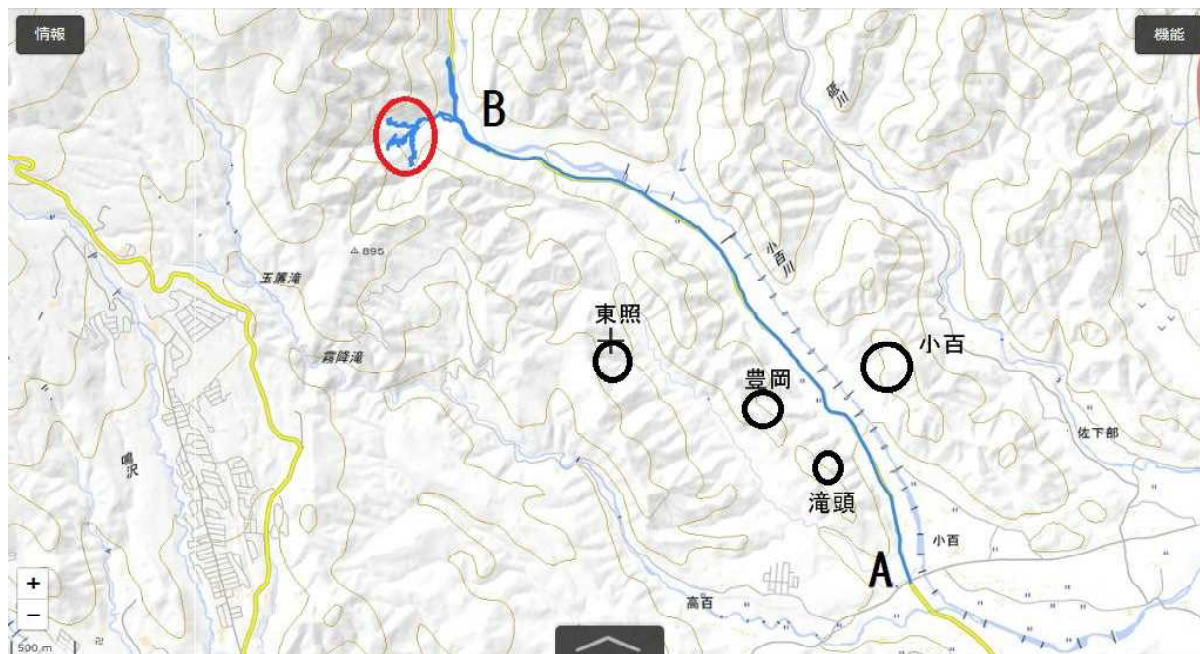


図1 日光市の小百付近から小百川に沿って北北西方向に進んでいく。水色曲線がガーミンによるログである。A点は小百の十字路。B点が大井沢と小百川の出合。赤丸が鉱山跡。なを、追加情報として、この付近ある本探査記で既報の鉱山跡を黒丸で書き入れている。



図2 図1の部分拡大図。大井沢出合のB点に適当な空き地があるので、車数台ならばそこに駐車できよう。近傍に釣り堀があり、広い駐車場がある。ここを利用するならば、経営者と確りと交渉しなければならない。無断駐車厳禁である。沢は広く緩やかである。林道は辛くも生きてはいる。林道が不確かならば、沢を登ると良い。参考文献(1)から得た沢の名称を書き加えている。アルファベット文字はチェック点である。黄緑丸は確認した坑口跡、茶色ベタはズリ、結構広い、良品が採集できるかは努力次第であろう。

11 図

栃木県大井鉱山附近地質鉱床図

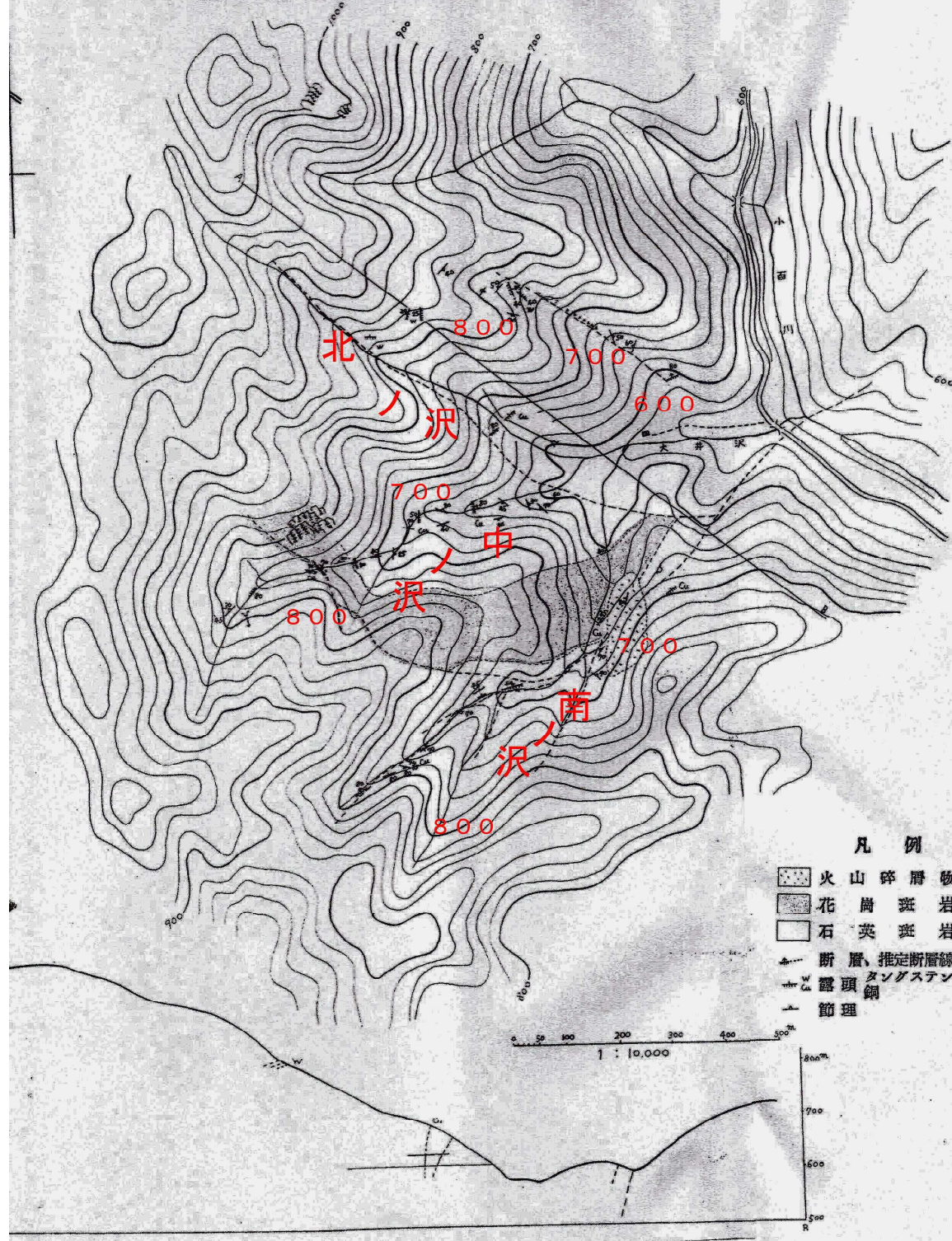


図3 参考文献(1)より複写掲載。文献中の説明文から、図中に北ノ沢、中ノ沢、南ノ沢の名称を書き加えた。また、分かり易いように赤色で標高も書き加えている。図2との対応がしやすいであろう。等高線などの分布状況が現在の地形図とあまり合致しないのは、60年以上も前の古い鉱山図なので仕方がないであろう。

鉱山写真



写真1 林道を登ってきた。C点付近である。前方はF点方向。右側の沢が北ノ沢。この沢を登っていくとズリ場と坑口跡がある。



写真2 D点付近にて。広い沢の上流前方にあった斜面となっている大きなズリ場。上部はプラトーで、その先に坑口跡。北ノ沢はE点付近までは広い。



写真3 D点付近。垂直岸壁下部に坑口跡。中央部の黒い部分。鉱山図の図3にはこの坑口の記号はない。



写真4 写真3で示した坑口を入口から覗く。



写真5 北ノ沢の更に上流のE点付近の広いプラトー部。沢の右岸に坑口跡が見える。次の写真を参照。



写真6 E点付近の沢の右岸にあった坑口跡。この坑口も鉱山図の3には記載はない。



写真7 写真6で示した坑口跡を入口から覗く。コンクリートで確りと閉塞されていた。



写真8 沢の分岐点のF点付近。上流を見ている。前方で沢は左右に分岐している。



写真 9 G 点で沢の上流を見る。この沢の探査はここまで。標高 6 5 0 m 位。



写真 1 0 H 点で沢の上流を見る。この沢の探査はここまで。標高 6 7 0 m 位。

参考文献

(1) 「地下資源調査報告書 第 1 号」、栃木県、1 9 5 6 年。

追記

(1) 図 2 から分かるように、3 つの沢とも標高 6 0 0 m 強までしか探査していない。図 3 によれば、3 つの沢とも 8 0 0 m 当たりまで調査が行われている。写真で紹介しているように、北ノ沢では坑口跡、ズリを確認している。図 3 にはこの坑口跡は記載がない。以上のことから、3 つの沢とも 8 0 0 m 当たりまで探査してみるのに興味が湧く。とすれば、出合から 3 0 0 m も登ることになるので、各沢を日を変えて登ることが良さそうである。なを、3 つの沢とも 6 0 0 m 以上では沢は急で狭く、登りにくいかも知れない。行って確認するしかない。

(2) やはり、3 つの各沢とも 8 0 0 m 強までは探査してみたい。沢の転石に何か見つかるかもしれないし、坑口跡、ズリも北ノ沢のように見つかるかもしれない。

(7) 大井沢(おおいさわ) 鉱山跡

参考文献(1)を手引きに、探査を行った。今市市の高德にある(参考文献(1)の実施年は1973年である)。主要鉱石は黄銅鉱、方鉛鉱、閃亜鉛鉱、輝蒼鉛鉱、輝水鉛鉱、鉄重石である。この鉱山は高德鉱山から遠くはない。車で10分ぐらいの距離であろうか。小百川を右手にして舗装された林道を先に進む。一本杉地区から約2km辺りで、道路の左手からの沢(名称は大井沢なのであろう)にかかっている橋を通る。沢には橋の近くに砂防ダムもある。この橋の先、左側に沢に沿っての林道がある(写真)。この林道入り口から徒歩で、この林道を登っていく。沢を登っても良いであろう。沢を左手にして、林道を約400m程度登る。林道の進行方向右手(大井沢の左岸)に、沢(水がないかも知れない)があり、大井沢に繋がっている。この沢に向かって右側を200m程度登り上がる。平坦な箇所が幾段か有り、ズリの跡らしい箇所もある。採鉱施設跡があったのかも知れない。地図の赤丸のあたり。沢を上り詰めた先に坑口跡がある(写真)。よく見ると、沢の向こう側にも坑口跡がある(写真)。廃坑は2つ見つけた。眼力のある人が探せば、種々の鉱石片を見つけるのであろうが、小生にはめぼしいズリは殆ど見つけられなかった。が、偶然に鉄重石らしい小さい試料を採取できた。それだけであった。

鉱山跡の探査は、草木の枯れた晩秋から夏前が最良である。木々は裸で、見晴らしが良くきくし、木の根元の草は、枯れてしまっているので、これ又、地面の探査がし易い。



地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「鬼怒川温泉」

探査日 2008年10月、その他の日

参考文献

(1)「鉱物観察ガイド」、松原聡、東海大学出版、2008年。

鉾山跡写真



橋の先の左が林道入り口。



坑口跡の1つ



他の坑口跡。

採集鉱物写真

品名	鉄重石	金属タングステンの主要鉱物
化学組成	FeWO_4	
色	黒色	
光沢	亜金属～ダイヤモンド光沢	
条痕色	黒～黒褐	
光沢		
硬度	4～4.5	
比重	7.4	結構重い
結晶系	単斜晶系	
劈開	一方向に完全	
共生鉱物	石英 (SiO_2)、螢石 (CaF_2)、トパーズ、錫石、灰重石 (CaWO_4)	



表面はすっかり削りあげられているが、鉄重石であることは確か